

# 特集 農家民泊 はじめませんか？

問 大田原グリーン・ツーリズム推進協議会  
(株式会社大田原ツーリズム)  
B別館2階 ☎0287-47-6759



## ただいま、と言いたい 「ふるさと」大田原へ

農業が盛んで美しい田園風景がある大田原市は、都市部や外国で暮らす方が農山村での農作業や食事などの体験を通して地域の方と交流して過ごす「農家民泊事業」を積極的に推進しています。今年で14年目を迎えるこの取り組みでは、地域の農家がたくさんの来訪者を受け入れ、その魅力的な暮らしを伝えてきました。今では日本を代表する農家民泊地域となり、毎年国内外から多くの団体旅行者が農家民泊体験に訪れています。



### 【募集】受け入れに興味がある方への説明会を開催します

宿泊者との出会いや交流が楽しみながら、農業・農村の魅力を伝えられます。どなたでも参加できますので、お気軽にご参加ください。

- 日時 12月17日(水) 14:00 ~ 15:00
- 場所 市役所 B 別館 2 階 会議室
- 申込方法 当日の12:00までに、商工観光課へ電話で申し込み  
※代表者名、参加人数、住所、電話番号をお伝えください。

問申 商工観光課 本 4 階

☎ 0 2 8 7 - 2 3 - 3 1 4 5



### 受入農家の副収入になります(例)

※5人が2泊3日で宿泊した場合の試算です。

- ① 農家民泊代金 (2泊)
  - ② 半日体験代金 (4回)
  - ③ 昼食体験代金 (3回)
- 計 : 87,500円



### 開業の申請手続きの支援

農家民泊を始めるにあたり、その準備や受入方法などについて丁寧にご説明します。  
また、市が申請手続きを全面的にお手伝いしますので、安心して始めることができます。



五十嵐さん(受入2年目)

## ●前職について

医療機器メーカーで開発業務をしていました。

## ●はじめたキッカケはなんですか

退職後、農業を始めようと古民家を購入したタイミングで農家民泊の説明会の案内を目にし、説明を聞いて受け入れを決めました。

## ●どんな体験を提供していますか

野菜の種まき、オリーブの施肥、スイカ・さつまいも・落花生・とうがらしなどの収穫、もちつき、そば打ち、すいとん作り、かんぴょう作り、竹を割って作った流しそうめん体験、お寺での坐禅体験など、季節によってできることを提供しています。

## ●農家民泊をはじめて良かったこと

他の受入農家と知り合い、農業について知見が広がりました。農作業の人手不足の解消にもなりました。

## ●受け入れた子どもたちと交流して感じたこと

採れたての野菜を喜んで食べる姿が印象的でした。農機具の使い方に四苦八苦しながらも楽しんで作業していたり、料理や片付けの手伝いを積極的にすることも多くて意外でした。

## ●農家民泊の魅力はなんですか

子どもたちが苦手な野菜にチャレンジして克服した時は嬉しさ倍増です。子どもたちからの感謝の手紙は、感動すると共に励みになります。

## ●受け入れについて

娘と孫3人と一緒に受け入れています。

## ●前職について

実家の農業の他、縫製会社を40年経営していました。

## ●はじめたキッカケはなんですか

協議会が実施した長野県への先進地バスツアーに参加し、自分でもできると思ったのがキッカケです。

## ●はじめるにあたり準備したもの

シーツ、布団カバー、枕、枕カバーなど

## ●どんな食事を提供していますか

朝食は三色丼・玉子焼き・ウインナー・ナゲット・ベーコン・みそ汁・漬物など、昼食は巻き寿司・ギョーザ・いなり寿司などを子どもたちと一緒に作ります。夕食は1日目にカツカレー

とサラダ、2日目はバーベキューと決めています。子どもたちも喜んでくれて、残さず食べてくれます。

## ●受け入れた子どもたちと交流して感じたこと

子どもたちが虫にすごく驚きながらも、積極的に農作業をやってくれます。子どもたちに元気もらっています。

## ●農家民泊を続ける秘訣はなんですか

孫が来たと思って、家族のように一緒に過ごすことです。子どもたちは「ばあちゃん」と呼んでくれます。別れの時、「また来るね」といって、さよならした子が本当に会いに来てくれるので驚きます。



齋藤さん(受入13年目)